

令和5年度 事業報告

I 事業の概要

1. 美術館開館事業

(1) 令和5年春季特別展 茶道具取合展「若葉時」

期 間 令和5年3月11日～令和5年6月11日

新型コロナウイルスが小康状態になったので、マスクの着用は個人判断とし、検温も行わないこととした。入館者・入館料収入は前年比103%となった。

(令和5年度春季開館日数 63日間)

展示品 別紙展示目録の通り

(2) 令和5年秋季特別展 茶道具取合展「しのぶ秋」

期 間 令和5年9月9日～令和5年12月3日（開館日数74日）

新型コロナウイルスの終息を受けて、パーティションと消毒液を受付に設置したが、マスクの着用は自由とした。野村美術館谷館長主導で「関西の美術館・博物館をめぐって茶の湯を楽しみませんか」と称して京都・大阪の美術館9館が連携して割引制度を実施した。

9月はその効果があり来館者は増加したが、10月の四君子苑開苑の入苑者に左右されるので、9館連携(100円の割引)の効果は限定的であった。(入館料収入は前年比92%)

展示品 別紙展示目録の通り

(3) 令和6年春季特別展 茶道具取合展「碧の空」

期 間 令和6年3月9日～令和6年6月9日

(令和5年度開館日数19日)

新型コロナウイルス対応については検温は行わず、マスク着用に関しても来館者の自主判断とした。

展示品 別紙展示目録の通り

(4) 入館者数、入館料収入

展示会名	開館日数	入館者数							入館料収入
		一般	学生	団体			身障者 他	合計	
				一般	同門会	学生			
¥600	¥400	¥500	¥450	¥300					
若葉時	63	502	53	875	74	0	20	1,524	¥793,200
しのぶ秋	74	721	81	1,094	134	3	35	2,068	¥1,073,200
碧の空	19	175	13	15	37	0	8	248	¥134,350
令和5年度	156	1,398	147	1,984	245	3	63	3,840	¥2,000,750
(参考) 令和4年度	152	1,573	122	1,725	369	6	44	3,839	¥2,022,950
(参考) 令和3年度	116	965	110	1,356	157	0	48	2,636	¥1,371,650
(参考) 令和2年度	108	769	101	631	95	0	45	1,641	¥860,050

注 同門会は表千家同門会会員

2. 四君子苑開苑事業

① 春季公開について

- 7年振りに夏仕立てを行い、公開を行った。新型コロナウイルス対策が緩和される状態になり、マスク着用や消毒は個人の自由とした。但し、建物内部でのガイドはコロナ蔓延中と同様行わず、団体客の予約も受け付けなかったことにした。
- 団体客の予約が事前に申し込みがあり2日間臨時公開を行った。
- 初日に開苑時間に約50名以上来苑し、入苑制限解除は12時頃まで続いた。
- 最終日は開苑時間に約100名の入苑希望者があり、約1時間待ちとなり、12時半以降もマックス60名に入苑してもらったが、14時半には待ってられる方全員に入苑して頂いた。
- 前年度の春季公開に比し入苑者・入苑料共に125%で、100名超の日は3日間あった。

② 秋季公開について

- 春季公開と同様夏仕立てで公開を行った。
- 臨時公開を2日間実施したが、その内1日の午後のツアーが集客できず中止となったので10月初旬にホームページで案内し、13:00～15:00まで一般客向けに臨時公開を行った。(結果41名の来苑者があった。)
- 春季公開時は入場制限を行った日が2日間あったが、秋季に関しては11時以降も待ち時間が発生することなく、スムーズな運営が出来た。

(1) 入苑者数、入苑料収入

		公開日		人数	金額
月	日	相手先			
4月	11日	一般公開		116	¥1,138,600
	12日			90	
	13日			86	
	14日			82	
	15日			116	
	16日			192	
	19日	午前	団体向 臨時公開	12	
		午後	一般公開	45	
	22日	団体向 臨時公開(2団体)		25	
小計				764	
10月	17日	一般公開		90	¥1,174,700
	18日			90	
	19日			106	
	20日			100	
	21日			151	
	22日			154	
	25日	午前	団体向 臨時公開	29	
		午後	一般公開	41	
	29日	団体向 臨時公開(2団体)		30	
小計				791	
合計				1,555	¥2,313,300

(2) 入苑者数、入苑料収入比較

公開年度	開苑日数	入苑者数	入苑料収入
令和5年度	16	1,555	2,313,300
令和4年度	15	1,536	2,304,000
令和3年度	14	1,248	1,972,000
令和2年度	8	551	828,500

3. 四君子苑貸出事業

今年度の貸出事業はなかった。

4. 館外展示事業(お茶会)

館外展示茶会名	期間	場 所
大圓庵茶会	4月24日	大徳寺 孤蓬庵
而妙会全国大会茶会	5月24日・25日	泉涌寺
竜田会茶会	10月21日・22日	泰勝寺跡 細川邸

5. 館外展示事業(貸出)

展示会名	貸出美術品	展示期間	展示場 所
真宗と聖徳太子	拾遺古徳伝絵巻断簡 絵本着色	5月2日 ～ 5月28日	龍谷大学 龍谷ミュージアム
茶の湯の茶碗-その歴史と魅力	野々村仁清 重要文化財 色絵鱗波文茶碗	9月16日 ～ 10月22日	中之島 香雪美術館

6. 撮影掲載料(掲載)収入について

依頼者	雑誌・書籍名等	掲載する館蔵品名
株式会社 淡交社	なごみ2021年連載「表装拝見」の単行本化 「表装ものがたり」 著者 濱村蘭衣子<京都芸術大学講師> 2023年5月刊行 発行部数 3,000部 に掲載	蕪村筆 鶯鳴図 双幅
阿部出版	陶芸の季刊誌『炎芸術』 No. 154(5月1日)刊行 で京焼特集を予定しており、その中の「京焼の歴史」 の参考図書としてカラーの実寸程度で掲載される。 本件中之島香雪美術館学芸課長梶山博史から電話で 依頼があったもの。	野々村仁清 作 重要文化財 「色絵鱗波文茶碗」
株式会社 淡交社	『淡交』令和5年6月号 特集「土浦藩土屋家の茶の湯」において「土屋蔵帳」 で有名な土浦藩二代藩主土屋政直を中心に、土屋家の茶の湯の様相を土 浦市立博物館の木塚久仁子副館長が解説し、カラーグラビアの挿図に使用 される	中興名物 瀬戸金華山茶入 銘広沢
博物館 明治村	令和5年9月1日～12月17日 開催の 「ライト館創建100年記念 企画展」で、日本における古来からの鱗文の実例 として、紹介する。(フランク・ロイド・ライトがファブリックに鱗文を使用している ため)	重要文化財 仁清作 色絵鱗波文茶碗
一般社団法人 美術検定協会	eラーニング「美術検定～アートを楽しむ学習プログラム」においてオンライン 美術史学習ツールに掲載	与謝蕪村筆 重要文化財 「鴉図」
阿部出版	陶芸の季刊誌『炎芸術』 No. 155(8月1日)刊行 で特集「変幻自在の織部(仮題)」に掲載される。 本件作品選定・原稿執筆は尾野善裕様 (京都国立博物館学芸課長)	重要文化財 織部松皮菱形手鉢
株式会社 淡交社	月刊茶道誌『淡交』の増刊号は、毎年テーマを一つに絞り、そのテーマを多 面的にとりあげ、毎年9月に刊行している。本年度の増刊号薄茶器図鑑(仮 題)では、手軽でありながら網羅的に、かつビジュアルを多く用いたわかりや すい誌面で薄茶器を紹介する。	宗旦好 留中棗 初代飛来一閑作 宗旦好 菊蒔絵菓子
石川県立博物館	石川県内の茶の湯文化をまとめた書籍『加賀茶道の みやび』(仮称)に、掲載予定(令和5年10月 発行)	重要文化財 仁清作 色絵鱗波文茶碗
月刊茶道誌「遠州」 株式会社大有	月刊茶道誌「遠州」(10月号) 連載 「茶の湯の道具」(著:小田宗達)の 口絵に掲載 (発売 9月25日)	石山切 貫之集下 断簡
川崎商工会議所	川崎商工会議所の冊子「かいぎしょ」(11月号)の 美術品紹介コーナー「審美巡礼」での掲載 筆者 学習院大学教授 荒川正明氏	重要文化財 仁清 色絵鱗波文茶碗
株NHK エンデュケーション	学校法人瓜生学園 京都芸術大学の通信教育講座の教材で2013年以降使 用したが、2017年の設置期間延長に続き、2024年度以降も配信の継続依頼 があったもの。 使用概要は講座名:「京都芸術大学 学芸学部共通専門教育科目『芸術史 講義』」 使用期間:2024年4月1日～2030年3月31日	重文 蕪村筆 鶯鳴図 双幅
株式会社 淡交社	『石工芸の伝統と美』(仮題) 西村大造著に於いて、 神社仏閣の石工芸品を図版で紹介。又、尼崎博正氏が石工芸の歴史(茶 人・庭師とのかかわり)を解説される。	宝篋印塔・六角燈籠(3箇所) 福岡県宝満山出土五輪塔
日本文教出版(株)	2026年度から使用される文科省検定高等学校芸術科美術 I 教科書図書 (以下検定教科書)に掲載	重文 蕪村筆 鶯鳴図 双幅
株式会社 淡交社 なごみ編集部	月刊誌『なごみ』(2024年1月号) 花、香、懐石、日本料理など、茶の湯の中に凝縮されている日本文化を紹介 する特集の中で、花入の歴史について、茶の湯史家の熊倉功氏が解説する ページに掲載される。	藤村庸軒好 置筒花入「遅馬」
(株)ネクサス開運! なんでも鑑定団	番組内で「御本茶碗」を取り上げるため、その当時の時代背景を紹介するた めに使用。 本放送:2024年1月16日(火) 20:54～21:54 1年以内に再放送、BS放送各1回 合計2回 他にインターネット配信あり	御本立鶴茶碗 銘「池水」

7. 撮影掲載料(撮影)収入について

依頼先	撮影目的	出版物 又は、放送内 容	撮影掲載する館蔵品名
株式会社 「芸術新潮」 編集部 伊熊素子 03-3266-5381	「芸術新潮」京都特集企画 「ヒミツの京都で武者小路 千家若宗匠「千宗屋」氏が 訪れてみたいモダン建築の 部で、幼いころから親しんで きた、ご近所の寺院と神社 として、四君子苑の石造物 が紹介される。	芸術新潮 京都特集 頁数60頁	四君子苑 石造物